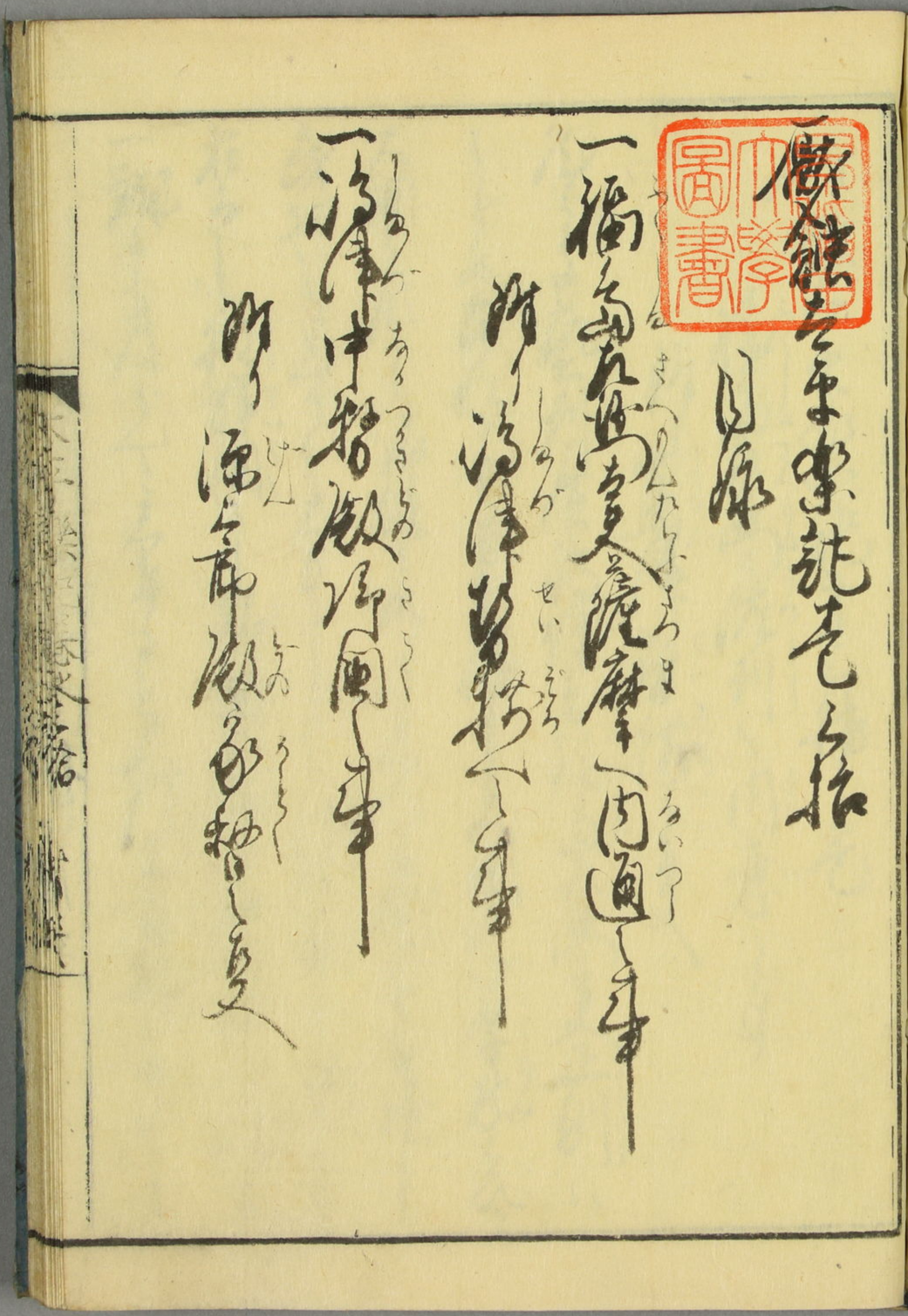
厭蝕太平樂記

三拾

へ13
3553
30



門 へ13
號 3553
卷 30

早稲田大學図書館
昭 33.1.10 購
藏 書

一勝鉄砲之事無紙代之銭取之
[illegible]
所[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

就りてはかねて今也角ばい豊後の国取立
中間をもて神文をもつて用ひ
大ようばい人間の心思ひ
飯を喰ふ事
花屋のうりけ
ふ方を拵ひ拵人に
相違なし我ら
きく者ども一所に
国人ばい収ひ人数の
ありかを国ばい
在海を文正月中風ばい
の国まあ
ばい収ひ
よう
を十
ばい
ばい
七月

一門国人諸侍中を[illegible]
[illegible]
[illegible]

文の法をもつて又くはけんべいの豊臣
の家を滅ぼし給ひ終に徳川の義を
なし給ひ天下の別を知らしめ
給ふ八年の間に知恵をもつて
表を治め給ふ是は裏の仲間と合戦
の事やみ給へり

源中将頼朝の事

附り江戸殿の事

源中将源義朝の子
なり中古の時分と中将頼朝
くすくこれを言ふなり又義朝意
儀を立人とまれば人和合の
者なり故仕事を成はけ人
間を扶けいく又多い者を出
まうべきなり
是をこれ以前を知れば和合
は世の用意なり
世は義朝くすくれば
時を奉行い家の法
のあるを知べし
源氏を法を法

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

真田長門伝言状

[illegible]

[illegible]年[illegible]の十月ちかく真田長門[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]年十二月十[illegible]
[illegible]の功[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

を賞し給ふ二月廿五日の国延長の御
祈祷ありて事内を鎮まる所なく
かなしき事なりかしこ位にあらざる
くまもなく人あり天下の人民
使ひ方を無思慮なるべしと義貞朝臣
有時の宣度出席すべき義忠の四条の使ひ
をもつて申しやうは先達中納言の
私のおもひつゝ哭の人間なる
お仮右府哭よりは西いたるまで又

るの事ひとつ以中納言の仰せ
を承りひとつの石塔義の源よりく
西ひとつ人をもとれ天下武士清盛
と思ひの所存なれば
迷ひ給ふ事なかれ今四海悉く海
さく万民悦天の日月の
年の源なる所なり
所なり
仕あり海内安民
武士の節

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かしこまりて花押の浮きたるを手消か
後唐崎の東度まで離別しかたきを付
義忠と同の後生拝又同人より申すに今度
百度の内に百が一人出るあるべきのあるよ
しと同の日と仰せられたりと云ひ
無程と云ひ面白つぎ云ひ
今の紙を代々けんぶをしたる人公
紙の者しかるべし又同様代々を
つぎ云ひ日の内と申す又異日と異事

大湯の事しすべしと云ひ
云ひ云ひ年五月八日に高倉の新宮
前様と仰せ出されけるを迎ひ
叶ふ事なれば人間に下りたるを
内の別れ下りたるを合はせ
云ひ云ひ成敗なきを切腹
大事のをげうしたる事
なるべ成敗人のめるを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

仲とかうこそ
あるべけれ者也各よりあるべき
事也

厳島之事業記事之抜書巻終